

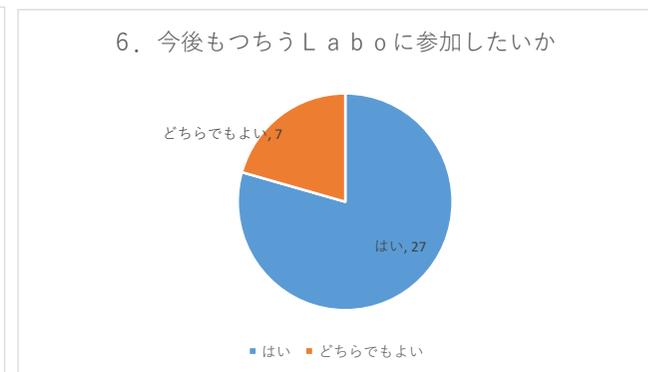
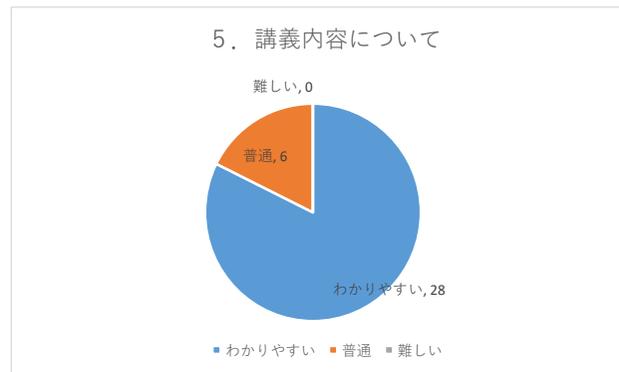
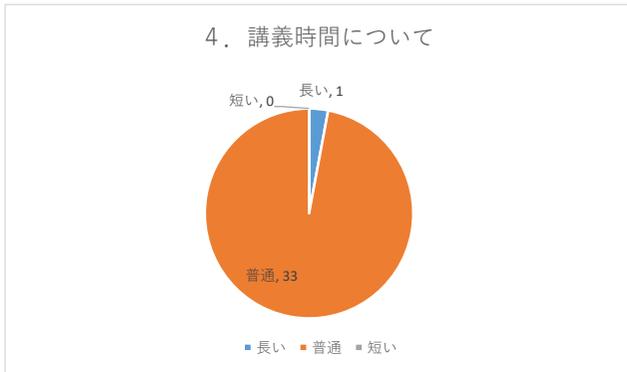
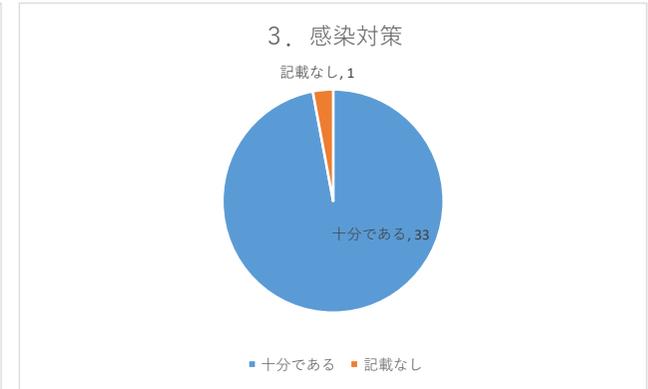
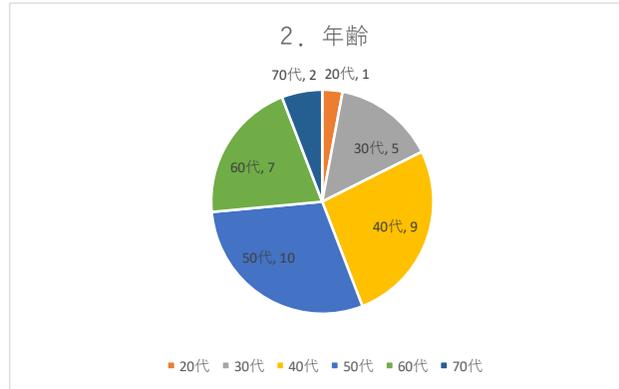
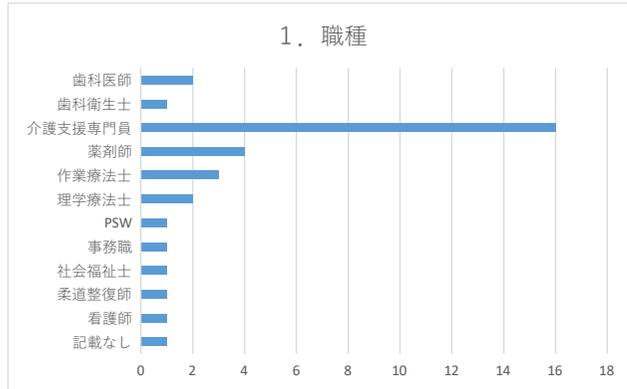
令和4年度第2回在宅医療介護連携@つちうL a b o 参加者アンケートの結果

日時：令和4年9月29日（木） 18時30分～20時

出席者：36名

場所：土浦市役所 2階研修室1・2

アンケート回答数：34名（回答率：94.4%）



【本日の内容で参考になった、今後取り組もうと思った内容はありましたか？】

- ・フレイルのある利用者へやりたいこと、意欲を持たせるための声かけを考えて実践していきたい。
- ・今までできていた事が困難となり、廃用が進行していく。少しの支援で廃用が予防できることを学んだ。
今後のケアマネジメントに活かしていきたいと考えるきっかけとなりました。
- ・リハビリ実施時やデイケア等活動時以外の過ごし方にも視点を向けなくてはと改めて実感しました。
- ・記録をこまめにとること
- ・「自分が必要とされているという意識」を持てるような対応を考えていく。
- ・フレイルの予防にはまず本人がこれから何をしたいか？を聞いて、一緒に考えながら行っていくことが重要と思った。
- ・フレイルについて
- ・ちょっとずつの散歩と日光に浴びること
- ・7,500歩→フレイル予防、スモールステップ法 記録しなければならない→やる気が出る
- ・一日の中で目的を持ち、「スモールステップ法」の活用

- ・目標を決めて、カレンダーなどに記録する。
- ・利用者に何がしたいか聞いてみて、その事に向けて出来る事を具体的に考えてみる。
- ・生活の活動を再度見直し、フレイルを見落とさないようにする。
- ・1日8,000歩歩く。
- ・連携手帳を利用者に届けたい。
- ・身近な高齢者である自分の親にフレイルについて話をしたいと思いました。
- ・介護予防、フレイルになる前の方への支援の確保など
- ・利用者への支援する中でフレイルの方がいると感じた。
戻り、改善を目指し、本人と家族の方々と話し、サポートしたいと思いました。生活行為が重要と感じています。
- ・通所リハビリを現在行わせていただいているので、それ以外のフォローアップが重要とお話をさせていただいたので、今後の利用者様へのサービス提供に取り入れていきたいと思いました。
- ・フレイル改善の取り組み時にも目標をはっきりさせておく必要があると感じた。
- ・できることからやってみたいと思います。
- ・フレイルは歯科にもあるため
- ・本日学んだ内容を日々高齢者との治療や会話に入れていきたい。
- ・リズム運動
- ・フレイルを予防する目的について聞くということ
- ・フレイルの予防のために考え方ややるのがわかり参考になりました。
高齢者と接する時に、フレイル予防の3つのポイントを考えながらお話したいと思います。
- ・薬剤師としてフレイルにどう関わっていけるか話し合いをしてみます。
- ・栄養、運動、社会参加がフレイルの予防改善ができることを学び、高齢者を支えていきたい。
- ・高齢者のモチベーションアップの方法
- ・サ高住で仕事に従事しているので、利用者（入居者）の関わりは家族やKPよりも深くなる。
サ高住という特性上、居室内での関わりは限度があるため、利用者の日頃の観察は必要。
ADL低下を発見した際、本人、家族の意見、意思をしっかりと把握する。
職員どうしが意識できるような環境をつくる。

【今後、どのようなテーマの研修会や意見交換会を行ってみたいですか？】

(介護支援専門員)

- ・高次脳機能障害のある利用者へのケア
- ・認知症でアパシーのある利用者へのケア
- ・グループワークより講義の方が学べる。
- ・認知症ケア
- ・災害支援（ハザードマップの活用）、福祉避難所の説明、備蓄品などの具体的な話
(作業療法士・柔道整復師)
- ・ケアマネの方々とケアプランについて、意見交換したいと感じた。
- ・介護保険について
- ・土浦市のサービス提供について
(薬剤師)
- ・在宅での連携

【在宅ケア連携手帳（在宅版）について、改善点等ご意見】

- ・居宅訪問していますが、100%手帳利用されていないのでさらに広がるとよいと思います。

【自由記述】

- ・土浦市での統計で話してほしかった。
- ・「自分が必要とされている」ということは大切だと思います。それこそフレイル予防になると思います。
- ・外から掃除の音が大きく聞こえて講話が聞きとりにくいところがありました。
- ・もう少し早い時間をお願いしたい。
- ・わかりやすいお話で、ありがとうございました。